

## 授業計画(シラバス)

科目名	ボイストレーニング実習 I		指導担当者名	山家ちあき
実務経験	有	ラジオMC、ボイストレーナーに従事		
開講時期	通年	28ターム	対象学科学年	声優科 1年
授業方法	講義:	演習:	実習: ○	実技:
年間時間数	84 時間		週時間数	3 時間
学習到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学生による自身の音域の理解</li> <li>・発声、歌唱テクニック、表現を学ぶ</li> <li>・声量の拡張、声幅と歌唱感覚を獲得する</li> </ul>			
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としての作品、レポートの提出状況などを点数配分し、100点満点で評価していく。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績表かは、A(80点~100点:優)、B(70点~79点:良)、C(60点~69点:可)、D(0点~59点:不可)、の4段かとする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p> <p>上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する。</p>			
使用教材	電子ピアノ、楽譜 等			
授業外学習の方法	録音データを聴く、自主練を行う			
学期	ターム	項目	内容・準備資料等	
授業 計画 前期	1	オリエンテーション		
	2	呼吸・発声①、	ウォーミングアップ、柔軟体操、ストレッチと筋肉強化について	
	3	呼吸・発声②	姿勢、呼吸、発声、共鳴とフェイストレーニング	
	4	のどと声帯・呼吸器官について	咽頭・喉頭、声帯の仕組み、胸式呼吸・腹式呼吸について実習を通して学ぶ	
	5	歌唱の呼吸①、歌唱指導①	深い息に耐えられる体づくり、課題曲	
	6	歌唱指導②	ハミング、課題曲	
	7	歌唱指導③	リップロール、課題曲	
	8	歌唱指導④	のどを柔軟にする	
	9	歌唱指導⑤	課題曲を完成させる	
	10	歌唱指導⑥	課題曲を完成させる、個別指導	
	11	歌唱指導⑦	課題曲の発表会、個別指導	
	12	これまでの復習	復習	
	13	期末試験	課題曲発表	
	14	振り返り	前期の振り返り	
<p>履修上の留意点</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない</li> <li>・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施</li> </ul>				

## 授業計画(シラバス)

科目名	ボイストレーニング実習 I		指導担当者名	山家ちあき	
実務経験	有	ラジオMC、ボイストレーナーに從事			
開講時期	通年	28ターム	対象学科学年	声優科 1年	
授業方法	講義:	演習:	実習:	○	実技:
年間時間数	84 時間		週時間数	3 時間	
学習到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学生による自身の音域の理解</li> <li>・発声、歌唱テクニック、表現を学ぶ</li> <li>・声量の拡張、声幅と歌唱感覚を獲得する</li> </ul>				
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としての作品、レポートの提出状況などを点数配分し、100点満点で評価していく。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績表かは。A(80点~100点:優)、B(70点~79点:良)、C(60点~69点:可)、D(0点~59点:不可)、の4段かとする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p> <p>上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する。</p>				
使用教材	電子ピアノ、楽譜 等				
授業外学習の方法	録音データを聴く、自主練を行う				
<b>学期</b>	<b>ターム</b>	<b>項目</b>	<b>内容・準備資料等</b>		
授業 計画  後 期	1	前期の復習、オリエンテーション	前期の復習、後期の授業内容を理解する。		
	2	声域①	自分の声域を知る		
	3	声域②	キーの設定、声区について学ぶ		
	4	歌唱の呼吸②、歌唱指導①	共鳴を学ぶ		
	5	歌唱指導②	ロングトーンの基礎、課題曲		
	6	歌唱指導③	クレッシェンドとデクレッシェンド、課題曲		
	7	歌唱指導④	ピアノとフォルテ、課題曲		
	8	歌唱指導⑤	裏声とファルセット、課題曲		
	9	歌唱指導⑥	音階、課題曲		
	10	歌唱指導⑦	全音、半音、課題曲		
	11	これまでの復習	復習		
	12	期末試験	課題曲発表		
	13	振り返り	期末試験振り返り		
	14	振り返り	1年間の振り返り		
<p>履修上の留意点</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない</li> <li>・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施</li> </ul>					

## 授業計画(シラバス)

科目名	ダンス実習 I		指導担当者名	藤原悦子
実務経験	有	ダンススタジオ経営、ダンサーとしての業務に従事		
開講時期	通年	28ターム	対象学科学年	声優科 1年
授業方法	講義:	演習:	実習: ○	実技:
年間時間数	84 時間		週時間数	3 時間
学習到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ダンス表現の基礎学ぶ</li> <li>・体力の向上を図る</li> <li>・肉体の柔軟性の向上を図る</li> </ul>			
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としての作品、レポートの提出状況などを点数配分し、100点満点で評価していく。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績表かは、A(80点~100点:優)、B(70点~79点:良)、C(60点~69点:可)、D(0点~59点:不可)、の4段かとする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p> <p>上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する。</p>			
使用教材	なし			
授業外学習の方法	自宅でのストレッチ・筋トレ、動画での振付振り返り 等			
<b>学期</b>	<b>ターム</b>	<b>項目</b>	<b>内容・準備資料等</b>	
授業 計画 前期	1	オリエンテーション	授業の目的、使用教材についての理解、授業の進行について説明	
	2	柔軟、筋トレ、バーレッスン①	ダンスの基礎である柔軟性や筋カトレーニングのやり方を覚える	
	3	柔軟、筋トレ、バーレッスン②	ダンスの基礎である柔軟性や筋カトレーニングのやり方を覚える	
	4	柔軟、筋トレ、バーレッスン③	ダンスの基礎である柔軟性や筋カトレーニングのやり方を覚える	
	5	柔軟、筋トレ、バーレッスン④	ダンスの基礎である柔軟性や筋カトレーニングのやり方を覚える	
	6	柔軟、筋トレ、バーレッスン⑤	ヒップホップについて知る	
	7	様々なダンスジャンル①	ビバップ、ブレイク、ロック、ポップについて知る	
	8	様々なダンスジャンル②	ダブステップ、フレキシング、レゲエについて知る	
	9	様々なダンスジャンル③	バレエ、ジャズ、タップダンスについて知る	
	10	様々なダンスジャンル④	フラメンコ、フラダンス、社交ダンスについて知る	
	11	様々なダンスジャンル⑤	タンゴ、ベリーダンスについて知る	
	12	様々なダンスジャンル⑥	コンテンポラリーダンスについて知る	
	13	前期期末試験	ダンスの基礎実技試験	
	14	前期振り返り	前期の学習内容の振り返り	
<p>履修上の留意点</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない</li> <li>・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施</li> </ul>				

## 授業計画(シラバス)

科目名	ダンス実習 I		指導担当者名	藤原悦子	
実務経験	有	ダンススタジオ経営、ダンサーとしての業務に従事			
開講時期	通年	28ターム	対象学科学年	声優科 1年	
授業方法	講義:	演習:	実習:	○	実技:
年間時間数	84 時間		週時間数	3 時間	
学習到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ダンス表現の基礎学ぶ</li> <li>・体力の向上を図る</li> <li>・肉体の柔軟性の向上を図る</li> </ul>				
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としての作品、レポートの提出状況などを点数配分し、100点満点で評価していく。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績表かは、A(80点~100点:優)、B(70点~79点:良)、C(60点~69点:可)、D(0点~59点:不可)、の4段かとする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p> <p>上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する。</p>				
使用教材	なし				
授業外学習の方法	自宅でのストレッチ・筋トレ、動画での振付振り返り 等				
<b>学期</b>	<b>ターム</b>	<b>項目</b>	<b>内容・準備資料等</b>		
授業 計画 後 期	1	前期振り返り	ダンス発表に向けた振り付けと反復練習		
	2	振り付け①	ダンス発表に向けた振り付けと反復練習		
	3	振り付け②	ダンス発表に向けた振り付けと反復練習		
	4	振り付け③	ダンス発表に向けた振り付けと反復練習		
	5	振り付け④	ダンス発表に向けた振り付けと反復練習		
	6	振り付け⑤	振り付けの中間確認を行う・フィードバック		
	7	中間発表	ダンス発表に向けた振り付けと反復練習		
	8	振り付け⑥	ダンス発表に向けた振り付けと反復練習		
	9	振り付け⑦	ダンス発表に向けた振り付けと反復練習		
	10	振り付け⑧	ダンス発表に向けた振り付けと反復練習		
	11	振り付け⑨	ダンス発表に向けた振り付けと反復練習		
	12	振り付け⑩	ダンス実習 実技小テスト		
	13	後期期末試験	ダンス発表		
	14	後期振り返り	後期学習内容の振り返り		
<p>履修上の留意点</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない</li> <li>・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施</li> </ul>					

## 授業計画(シラバス)

科目名	ナレーション演習		指導担当者名	宗方 和子
実務経験	有	司会業、ナレーターとして従事		
開講時期	通年	28ターム	対象学科学年	声優科 1年
授業方法	講義:	演習: ○	実習:	実技:
年間時間数	84 時間		週時間数	3 時間
学習到達目標	文意を読み取り、スポンサー企業や制作者の意図するナレーション技術の習得			
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としての作品、レポートの提出状況などを点数配分し、100点満点で評価していく。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績表かは、A(80点~100点:優)、B(70点~79点:良)、C(60点~69点:可)、D(0点~59点:不可)、の4段かとする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p> <p>上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する。</p>			
使用教材	はじめてのナレーショントレーニング、本番ナレーション原稿			
授業外学習の方法	外部スタジオでのナレーション収録への参加、授業内で出した課題の実技練習			
<b>学期</b>	<b>ターム</b>	<b>項目</b>	<b>内容・準備資料等</b>	
授業 計画 前期	1	オリエンテーション	自己紹介、授業の目的・流れの説明、ナレーションとは	
	2	コマーシャルナレーション①	コマーシャルナレーション基礎知識	
	3	コマーシャルナレーション②	声のトーンでナレーションのイメージに変化をつける	
	4	コマーシャルナレーション③	様々なコマーシャルナレーション原稿を読む	
	5	声の響きについて	自分の声の響きや特徴を理解する	
	6	様々なナレーション①	映画番組の予告ナレーション演習	
	7	様々なナレーション②	ドキュメンタリーナレーション	
	8	様々なナレーション③	コメディナレーション	
	9	様々なナレーション④	旅行番組、お店の紹介ナレーション	
	10	様々なナレーション⑤	動物番組ナレーション	
	11	様々なナレーション⑥	企業紹介ナレーション	
	12	様々なナレーション⑦	店内アナウンス	
	13	前期期末試験	ナレーションの実技試験	
	14	前期振り返り	前期の学習内容の振り返り	
<p>履修上の留意点</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない</li> <li>・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施</li> </ul>				

## 授業計画(シラバス)

科目名	ナレーション演習	指導担当者名	宗方 和子
実務経験	有 司会業、ナレーターとして従事		
開講時期	通年 28ターム 対象学科学年 声優科 1年		
授業方法	講義:	演習: ○	実習: 実技:
年間時間数	84 時間	週時間数	3 時間
学習到達目標	文意を読み取り、スポンサー企業や制作者の意図するナレーション技術の習得		
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としての作品、レポートの提出状況などを点数配分し、100点満点で評価していく。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績表かは、A(80点~100点:優)、B(70点~79点:良)、C(60点~69点:可)、D(0点~59点:不可)、の4段かとする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p> <p>上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する。</p>		
使用教材	はじめてのナレーショントレーニング、本番ナレーション原稿		
授業外学習の方法	外部スタジオでのナレーション収録への参加、授業内で出した課題の実技練習		
<b>学期</b>	<b>ターム</b>	<b>項目</b>	<b>内容・準備資料等</b>
授業 計画  後 期	1	様々なナレーション⑧	劇場内などの案内ナレーション
	2	様々なナレーション⑨	博物館、イベント広報アナウンス
	3	様々なナレーション⑩	音声ガイド、結婚式映像ナレーション
	4	声、呼吸のトレーニング	呼吸と発声の確認
	5	アクセント、イントネーションの確認	アクセント辞典の使い方、イントネーションについて
	6	プロミネンス	プロミネンス(強調)のトレーニング
	7	アーティキュレーション	アーティキュレーション(滑舌)のトレーニング
	8	フレージング	フレージング(句節法)のトレーニング
	9	ポーズ	ポーズ(間)のトレーニング
	10	リズム	リズムのトレーニング
	11	長物ナレーション	長物原稿のナレーショントレーニング
	12	紀行物ナレーション	紀行物原稿のナレーショントレーニング
	13	後期期末試験	ナレーション実技試験
	14	後期振り返り	後期学習内容の振り返り
<p>履修上の留意点</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない</li> <li>・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施</li> </ul>			

## 授業計画(シラバス)

科目名	コンテンツ制作実習 I		指導担当者名	伊東 広
実務経験	有	音響制作、スタジオ経営者		
開講時期	通年	28ターム	対象学科学年	声優科 1年
授業方法	講義:	演習:	実習: ○	実技:
年間時間数	84 時間		週時間数	3 時間
学習到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・音響機材セッティング/音声収録ができる</li> <li>・パソコンでのオーディオデータ編集入門</li> <li>・文章作成/構成/添削/読み上げの技術向上</li> <li>・1年生:ボイスサンプル制作</li> </ul>			
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としての作品、レポートの提出状況などを点数配分し、100点満点で評価していく。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績表かは、A(80点~100点:優)、B(70点~79点:良)、C(60点~69点:可)、D(0点~59点:不可)、の4段かとする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p> <p>上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する。</p>			
使用教材	パソコン、マイク、ヘッドホン、オーディオインターフェース、ケーブル類			
授業外学習の方法	収録した音声を編集アプリで編集をし、授業内容の復習を行う			
学期	ターム	項目	内容・準備資料等	
授業 計画 前期	1	オリエンテーション	自己紹介・マイク～スピーカー音が出るまで	
	2	パソコン基礎	パソコン操作基礎・ソフトインストール・データ種類/作成/保存	
	3	波形編集ソフト①	PC+オーディオIF 録音	
	4	波形編集ソフト①	PC+オーディオIF オーダシティ① 録音	
	5	波形編集ソフト②	オーダシティ② 波形編集・エフェクト1	
	6	波形編集ソフト②	オーダシティ② 波形編集・エフェクト1	
	7	波形編集ソフト③	オーダシティ③ 波形編集・エフェクト2、小テスト	
	8	波形編集ソフト③	オーダシティ③ 波形編集・エフェクト2、小テスト	
	9	ボイスサンプル研究①	現役声優のサンプル研究、自己PR録音編集	
	10	ボイスサンプル研究②	現役声優のサンプル研究、セリフ録音編集	
	11	ボイスサンプル研究③	現役声優のサンプル研究、ナレーション録音編集	
	12	ボイスサンプル研究④	現役声優のサンプル研究、歌唱録音編集	
	13	前期期末試験	ボイスサンプル完成、提出	
	14	前期振り返り	波形編集ソフト復習、ボイスサンプル復習振り返り	
<p>履修上の留意点</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない</li> <li>・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施</li> </ul>				

## 授業計画(シラバス)

科目名	コンテンツ制作実習 I		指導担当者名	伊東 広	
実務経験	有	音響制作、スタジオ経営者			
開講時期	通年	28ターム	対象学科学年	声優科 1年	
授業方法	講義:	演習:	実習:	○	実技:
年間時間数	84 時間		週時間数	3 時間	
学習到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・音響機材セッティング/音声収録ができる</li> <li>・パソコンでのオーディオデータ編集入門</li> <li>・文章作成/構成/添削/読み上げの技術向上</li> <li>・1年生:ボイスサンプル制作</li> </ul>				
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としての作品、レポートの提出状況などを点数配分し、100点満点で評価していく。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績表かは、A(80点~100点:優)、B(70点~79点:良)、C(60点~69点:可)、D(0点~59点:不可)、の4段かとする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p> <p>上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する。</p>				
使用教材	パソコン、マイク、ヘッドホン、オーディオインターフェース、ケーブル類				
授業外学習の方法	収録した音声を編集アプリで編集をし、授業内容の復習を行う				
<b>学期</b>	<b>ターム</b>	<b>項目</b>	<b>内容・準備資料等</b>		
授業 計画  後 期	1	音響制作①	舞台音響制作体験①		
	2	音響制作②	舞台音響制作体験②		
	3	作品制作①	ボイスラジオドラマ制作 企画		
	4	作品制作②	ボイスラジオドラマ制作 企画		
	5	作品制作③	ボイスラジオドラマ制作 台本制作・キャスティング		
	6	作品制作④	ボイスラジオドラマ制作 台本制作・キャスティング		
	7	作品制作⑤	ボイスラジオドラマ制作 収録・BGMや効果音の選出		
	8	作品制作⑥	ボイスラジオドラマ制作 収録・BGMや効果音の選出		
	9	作品制作⑦	ボイスラジオドラマ制作 収録・BGMや効果音の選出		
	10	作品制作⑧	ボイスラジオドラマ制作 編集作業		
	11	作品制作⑨	ボイスラジオドラマ制作 編集作業		
	12	作品制作⑩	ボイスラジオドラマ制作 編集作業		
	13	後期末試験	ボイスドラマ完パケ		
	14	後期振り返り	舞台音響復習、ボイスドラマ制作復習振り返り		
<p>履修上の留意点</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない</li> <li>・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施</li> </ul>					



## 授業計画(シラバス)

科目名	演技表現実習 I		指導担当者名	難波 恭介
実務経験	有	県内外で俳優業に従事		
開講時期	通年	28ターム	対象学科学年	声優科1年
授業方法	講義:	演習:	実習: ○	実技:
年間時間数	84 時間		週時間数	3 時間
学習到達目標	・演技表現の基礎を学び、本番の舞台公演を完成させ、多岐にわたる舞台制作のスキルを身に付ける。			
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果による評価の他、出席状況、授業課題としての制作物、レポート等の提出状況を点数配分し、100点満点で評価していく。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は「A(80点~100点:優)、B(70点~79点:良)、C(60点~69点:可)、D(0点~59点:不可)」の4段階とする。A、B、Cの評価は合格とし、D評価の場合は不合格とする。上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する。</p>			
使用教材	台本			
授業外学習の方法	自宅での台本読み、発声、役作り 等			
学期	ターム	項目	内容・準備資料等	
授業 計画  前期	1	オリエンテーション	授業の流れ、模擬オーディション	
	2	演技とは何か?	演技の基礎知識	
	3	実践トレーニング①	演劇における声の出し方、基礎トレーニング①	
	4	実践トレーニング②	演劇における声の出し方、基礎トレーニング②	
	5	実践トレーニング③	演劇における立ち振る舞い①	
	6	実践トレーニング④	演劇における立ち振る舞い②	
	7	実践トレーニング⑤	エチュード①	
	8	実践トレーニング⑥	エチュード②	
	9	実践トレーニング⑦	感情表現「喜」	
	10	実践トレーニング⑦	感情表現「怒」	
	11	実践トレーニング⑧	感情表現「哀」	
	12	実践トレーニング⑨	感情表現「楽」	
	13	前期期末試験	感情表現 即興劇 実技テスト	
	14	前期振り返り	前期学習内容の振り返り	
<p>履修上の留意点</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない</li> <li>・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施</li> </ul>				

## 授業計画(シラバス)

科目名	演技表現実習 I	指導担当者名	難波 恭介
実務経験	有	県内外で俳優業に従事	
開講時期	通年	28ターム	対象学科学年 声優科1年
授業方法	講義:	演習:	実習: ○ 実技:
年間時間数	84 時間		週時間数 3 時間
学習到達目標	・演技表現の基礎を学び、本番の舞台公演を完成させ、多岐にわたる舞台制作のスキルを身に付ける。		
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果による評価の他、出席状況、授業課題としての制作物、レポート等の提出状況を点数配分し、100点満点で評価していく。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は「A(80点~100点:優)、B(70点~79点:良)、C(60点~69点:可)、D(0点~59点:不可)」の4段階とする。A、B、Cの評価は合格とし、D評価の場合は不合格とする。上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する。</p>		
使用教材	台本		
授業外学習の方法	自宅での台本読み、発声、役作り 等		
<b>学期</b>	<b>ターム</b>	<b>項目</b>	<b>内容・準備資料等</b>
授業 計画  後 期	1	期末試験振り返り	キャスト別台本読み①
	2	舞台稽古	キャスト別台本読み②
	3	舞台稽古	立ち稽古①
	4	舞台稽古	立ち稽古②
	5	舞台稽古	立ち稽古③
	6	舞台稽古	立ち稽古④
	7	舞台稽古	立ち稽古⑤
	8	舞台稽古	通し稽古①
	9	舞台稽古	通し稽古②
	10	舞台稽古	通し稽古③
	11	舞台稽古	リハーサル
	12	舞台稽古	ゲネプロ、仕込み
	13	後期期末試験	舞台本番 にて実技試験
	14	後期振り返り	後期学習内容の振り返り
<p>履修上の留意点</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない</li> <li>・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施</li> </ul>			

## 授業計画(シラバス)

科目名	ラジオ・MC実習 I		指導担当者名	ちば えみ
実務経験	有	県内外のMC・ナレーターに従事。日本俳優連合会組合員。		
開講時期	通年	28ターム	対象学科学年	声優科 1年
授業方法	講義:	演習:	実習: ○	実技:
年間時間数	84 時間		週時間数	3 時間
学習到達目標	・司会、イベントMCなどの知識・技術、MC原稿読み・イベント進行を学び、MCとして舞台に立てる人材の育成を行う。			
評価方法 評価基準	学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としての作品、レポートの提出状況などを点数配分し、100点満点で評価していく。 期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績表かは、A(80点~100点:優)、B(70点~79点:良)、C(60点~69点:可)、D(0点~59点:不可)、の4段かとする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。 上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する。			
使用教材	MC原稿、筆記用具			
授業外学習の方法	ナレーション原稿作成、原稿読み等			
学期	ターム	項目	内容・準備資料等	
授業 計画 前期	1	オリエンテーション	授業の流れ、模擬オーディション	
	2	MC基礎知識	MC・司会業について実践を交え学ぶ	
	3	MC基礎知識②	MC・司会業について実践を交え学ぶ	
	4	MC基礎知識④	MC・司会業について実践を交え学ぶ	
	5	MC基礎知識③	MC・司会業について実践を交え学ぶ	
	6	滑舌発音チェック	MC・司会業について実践を交え学ぶ	
	7	イベントMC実習①	食品、スポーツ用品、化粧品でのナレーションイベントMC	
	8	イベントMC実習②	自動車、ゲーム、旅行プランのイベントMC	
	9	イベントMC実習③	住宅展示場、アミューズメントパークのイベントMC	
	10	イベントMC実習④	音楽イベントのMC	
	11	イベントMC実習⑤	eスポーツイベントのMC	
	12	イベントMC実習⑥	結婚式の司会	
	13	前期期末試験	MC基礎知識についてテスト	
	14	前期振り返り	前期学習内容の振り返り	
履修上の留意点 ・出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない ・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施				

## 授業計画(シラバス)

科目名	ラジオ・MC実習 I		指導担当者名	ちば えみ	
実務経験	有	県内外のMC・ナレーターに従事。日本俳優連合会組合員。			
開講時期	通年	28ターム	対象学科学年	声優科 1年	
授業方法	講義:	演習:	実習:	○	実技:
年間時間数	84 時間		週時間数	3 時間	
学習到達目標	・司会、イベントMCなどの知識・技術、MC原稿読み・イベント進行を学び、MCとして舞台に立てる人材の育成を行う。				
評価方法 評価基準	学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としての作品、レポートの提出状況などを点数配分し、100点満点で評価していく。 期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績表かは、A(80点~100点:優)、B(70点~79点:良)、C(60点~69点:可)、D(0点~59点:不可)、の4段かとする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。 上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する。				
使用教材	MC原稿、筆記用具				
授業外学習の方法	ナレーション原稿作成、原稿読み等				
<b>学期</b>	<b>ターム</b>	<b>項目</b>	<b>内容・準備資料等</b>		
授業 計画  後 期	1	紹介・説明ナレーション②	セミナー紹介、マナー講座、学校授業教材の司会		
	2	ラジオ番組制作①	ラジオ番組を想定し、企画、番組収録を行う		
	3	ラジオ番組制作②	ラジオ番組を想定し、企画、番組収録を行う		
	4	ラジオ番組制作③	ラジオ番組を想定し、企画、番組収録を行う		
	5	ラジオ番組制作④	ラジオ番組を想定し、企画、番組収録を行う		
	6	ラジオ番組制作⑤	ラジオ番組を想定し、企画、番組収録を行う		
	7	ラジオ番組制作⑥	ラジオ番組を想定し、企画、番組収録を行う		
	8	ラジオ番組制作⑦	ラジオ番組を想定し、企画、番組収録を行う		
	9	ラジオ番組制作⑧	ラジオ番組を想定し、企画、番組収録を行う		
	10	ラジオ番組制作⑨	ラジオ番組を想定し、企画、番組収録を行う		
	11	ラジオ番組制作⑩	ラジオ番組を想定し、企画、番組収録を行う		
	12	ラジオ番組制作⑪	ラジオ番組を想定し、企画、番組収録を行う		
	13	後期期末試験	実技テスト		
	14	後期振り返り	後期学習内容の振り返り		
履修上の留意点 ・出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない ・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施					

## 授業計画(シラバス)

科目名	ボイストレーニング実習Ⅱ		指導担当者名	山家ちあき
実務経験	有	ラジオMC、ボイストレーナーとして従事		
開講時期	通年	28ターム	対象学科学年	声優科 2年
授業方法	講義:	演習:	実習: ○	実技:
年間時間数	84 時間		週時間数	3 時間
学習到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学生による自身の音域の理解</li> <li>・発声、歌唱テクニック、表現を学ぶ</li> <li>・声量の拡張、声幅と歌唱感覚を獲得する</li> </ul>			
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としての作品、レポートの提出状況などを点数配分し、100点満点で評価していく。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績表かは、A(80点~100点:優)、B(70点~79点:良)、C(60点~69点:可)、D(0点~59点:不可)、の4段かとする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p> <p>上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する。</p>			
使用教材	電子ピアノ、楽譜 等			
授業外学習の方法	録音データを聴く、自主練を行う			
学期	ターム	項目	内容・準備資料等	
授業 計画 前期	1	オリエンテーション	1年次の振り返り	
	2	呼吸・発声①、	ウォーミングアップ、柔軟体操、ストレッチと筋肉強化について	
	3	呼吸・発声②	姿勢、呼吸、発声、共鳴とフェイストレーニング	
	4	のどと声帯・呼吸器官について	咽頭・喉頭、声帯の仕組み、胸式呼吸・腹式呼吸について実習を通して学ぶ	
	5	歌唱の呼吸①、歌唱指導①	深い息に耐えられる体づくり、課題曲	
	6	歌唱指導②	ハミング、課題曲	
	7	歌唱指導③	リップロール、課題曲	
	8	歌唱指導④	のどを柔軟にする	
	9	歌唱指導⑤	課題曲を完成させる	
	10	歌唱指導⑥	課題曲を完成させる、個別指導	
	11	歌唱指導⑦	課題曲の発表会、個別指導	
	12	これまでの復習	復習	
	13	期末試験	課題曲発表	
	14	振り返り	前期の振り返り	
<p>履修上の留意点</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない</li> <li>・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施</li> </ul>				

## 授業計画(シラバス)

科目名	ボイストレーニング実習Ⅱ		指導担当者名	山家ちあき	
実務経験	有	ラジオMC、ボイストレーナーとして従事			
開講時期	通年	28ターム	対象学科学年	声優科 2年	
授業方法	講義:	演習:	実習:	○	実技:
年間時間数	84 時間		週時間数	3 時間	
学習到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学生による自身の音域の理解</li> <li>・発声、歌唱テクニック、表現を学ぶ</li> <li>・声量の拡張、声幅と歌唱感覚を獲得する</li> </ul>				
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としての作品、レポートの提出状況などを点数配分し、100点満点で評価していく。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績表かは、A(80点~100点:優)、B(70点~79点:良)、C(60点~69点:可)、D(0点~59点:不可)、の4段かとする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p> <p>上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する。</p>				
使用教材	電子ピアノ、楽譜 等				
授業外学習の方法	録音データを聴く、自主練を行う				
<b>学期</b>	<b>ターム</b>	<b>項目</b>	<b>内容・準備資料等</b>		
授業 計画  後 期	1	前期の復習、オリエンテーション	前期の復習、後期の授業内容を理解する。		
	2	声域①	自分の声域を知る		
	3	声域②	キーの設定、声区について学ぶ		
	4	歌唱の呼吸②、歌唱指導①	共鳴を学ぶ		
	5	歌唱指導②	ロングトーンの基礎、課題曲		
	6	歌唱指導③	クレッシェンドとデクレッシェンド、課題曲		
	7	歌唱指導④	ピアノとフォルテ、課題曲		
	8	歌唱指導⑤	裏声とファルセット、課題曲		
	9	歌唱指導⑥	音階、課題曲		
	10	歌唱指導⑦	全音、半音、課題曲		
	11	これまでの復習	復習		
	12	期末試験	課題曲発表		
	13	振り返り	期末試験振り返り		
	14	振り返り	1年間の振り返り		
<p>履修上の留意点</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない</li> <li>・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施</li> </ul>					

## 授業計画(シラバス)

科目名	アフレコ実習		指導担当者名	小椋 有紗
実務経験	有	声優・役者としてプロダクション所属の経験		
開講時期	通年	28ターム	対象学科学年	声優科 2年
授業方法	講義:	演習:	実習: ○	実技:
年間時間数	84 時間		週時間数	3 時間
学習到達目標	アフレコに関する基礎的な知識を身に付け、アフレコ表現ができるようになる。			
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としての作品、レポートの提出状況などを点数配分し、100点満点で評価していく。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績表かは、A(80点~100点:優)、B(70点~79点:良)、C(60点~69点:可)、D(0点~59点:不可)、の4段かとする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p> <p>上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する。</p>			
使用教材	台本、筆記用具			
授業外学習の方法	台本読み、役作り等			
学期	ターム	項目	内容・準備資料等	
授業 計画 前期	1	オリエンテーション	授業の流れの説明	
	2	基礎知識①	アフレコに関する知識、事務所・養成所について	
	3	基礎知識②	現在のアフレコについての知識	
	4	機材実習	アフレコに必要な機材について、機材の設営について	
	5	台本実習	台本の読み方、めぐり方について	
	6	マイクワーク実習	マイクワークについて	
	7	アフレコ実習①	日常会話(ナチュラルな演技) 喜楽①	
	8	アフレコ実習②	日常会話(ナチュラルな演技) 喜楽②	
	9	アフレコ実習③	日常会話(ナチュラルな演技) 怒哀①	
	10	アフレコ実習④	日常会話(ナチュラルな演技) 怒哀②	
	11	アフレコ実習⑤	日常会話(ナチュラルな演技) 複雑な感情表現	
	12	アフレコ実習⑥	日常会話(ナチュラルな演技)	
	13	前期期末試験	日常会話のアフレコ表現の実技テスト	
	14	前期振り返り	前期学習内容の振り返り	
<p>履修上の留意点</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない</li> <li>・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施</li> </ul>				

## 授業計画(シラバス)

科目名	アフレコ実習		指導担当者名	小椋 有紗
実務経験	有	声優・役者としてプロダクション所属の経験		
開講時期	通年	28ターム	対象学科学年	声優科 2年
授業方法	講義:	演習:	実習: ○	実技:
年間時間数	84 時間		週時間数	3 時間
学習到達目標	アフレコに関する基礎的な知識を身に付け、アフレコ表現ができるようになる。			
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としての作品、レポートの提出状況などを点数配分し、100点満点で評価していく。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績表かは、A(80点~100点:優)、B(70点~79点:良)、C(60点~69点:可)、D(0点~59点:不可)、の4段かとする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p> <p>上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する。</p>			
使用教材	台本、筆記用具			
授業外学習の方法	台本読み、役作り等			
学期	ターム	項目	内容・準備資料等	
授業 計画  後 期	1	前期振り返り	前期振り返り、後期授業内容の確認	
	2	アフレコ実習①	ボイスコミック①	
	3	アフレコ実習②	ボイスコミック②	
	4	アフレコ実習③	ボイスコミック③	
	5	アフレコ実習④	ゲーム台本①	
	6	アフレコ実習⑤	ゲーム台本②	
	7	アフレコ実習⑥	アクション①	
	8	アフレコ実習⑦	アクション②	
	9	アフレコ実習⑧	アクション③	
	10	アフレコ実習⑨	作品一本通し①	
	11	アフレコ実習⑩	作品一本通し②	
	12	アフレコ実習⑪	作品一本通し③	
	13	前期期末試験	アフレコ現場を想定した実技テスト	
	14	前期振り返り	後期授業内容の確認	
<p>履修上の留意点</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない</li> <li>・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施</li> </ul>				



## 授業計画(シラバス)

科目名	ダンス実習Ⅱ		指導担当者名	藤原悦子
実務経験	有	ダンススタジオ経営、ダンサーとしての業務に従事		
開講時期	通年	28ターム	対象学科学年	声優科 2年
授業方法	講義:	演習:	実習: ○	実技:
年間時間数	84 時間		週時間数	3 時間
学習到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ダンス表現の基礎学ぶ</li> <li>・体力の向上を図る</li> <li>・肉体の柔軟性の向上を図る</li> </ul>			
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としての作品、レポートの提出状況などを点数配分し、100点満点で評価していく。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績表かは、A(80点~100点:優)、B(70点~79点:良)、C(60点~69点:可)、D(0点~59点:不可)、の4段かとする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p> <p>上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する。</p>			
使用教材	なし			
授業外学習の方法	自宅でのストレッチ・筋トレ、動画での振付振り返り 等			
学期	ターム	項目	内容・準備資料等	
授業 計画 前期	1	オリエンテーション	授業の目的、使用教材についての理解、授業の進行について説明	
	2	柔軟、筋トレ、バーレッスン①	ダンスの基礎である柔軟性や筋カトレーニングのやり方を覚える	
	3	柔軟、筋トレ、バーレッスン②	ダンスの基礎である柔軟性や筋カトレーニングのやり方を覚える	
	4	柔軟、筋トレ、バーレッスン③	ダンスの基礎である柔軟性や筋カトレーニングのやり方を覚える	
	5	柔軟、筋トレ、バーレッスン④	ダンスの基礎である柔軟性や筋カトレーニングのやり方を覚える	
	6	柔軟、筋トレ、バーレッスン⑤	ヒップホップについて知る	
	7	様々なダンスジャンル①	ビバップ、ブレイク、ロック、ポップについて知る	
	8	様々なダンスジャンル②	ダブステップ、フレキシング、レゲエについて知る	
	9	様々なダンスジャンル③	バレエ、ジャズ、タップダンスについて知る	
	10	様々なダンスジャンル④	フラメンコ、フラダンス、社交ダンスについて知る	
	11	様々なダンスジャンル⑤	タンゴ、ベリーダンスについて知る	
	12	様々なダンスジャンル⑥	コンテンポラリーダンスについて知る	
	13	前期期末試験	ダンスの基礎実技試験	
	14	前期振り返り	前期の学習内容の振り返り	
<p>履修上の留意点</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない</li> <li>・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施</li> </ul>				

## 授業計画(シラバス)

科目名	ダンス実習Ⅱ		指導担当者名	藤原悦子	
実務経験	有	ダンススタジオ経営、ダンサーとしての業務に従事			
開講時期	通年	28ターム	対象学科学年	声優科 2年	
授業方法	講義:	演習:	実習:	○	実技:
年間時間数	84 時間		週時間数	3 時間	
学習到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ダンス表現の基礎学ぶ</li> <li>・体力の向上を図る</li> <li>・肉体の柔軟性の向上を図る</li> </ul>				
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としての作品、レポートの提出状況などを点数配分し、100点満点で評価していく。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績表かは、A(80点~100点:優)、B(70点~79点:良)、C(60点~69点:可)、D(0点~59点:不可)、の4段かとする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p> <p>上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する。</p>				
使用教材	なし				
授業外学習の方法	自宅でのストレッチ・筋トレ、動画での振付振り返り 等				
<b>学期</b>	<b>ターム</b>	<b>項目</b>	<b>内容・準備資料等</b>		
授業 計画  後 期	1	前期振り返り	ダンス発表に向けた振り付けと反復練習		
	2	振り付け①	ダンス発表に向けた振り付けと反復練習		
	3	振り付け②	ダンス発表に向けた振り付けと反復練習		
	4	振り付け③	ダンス発表に向けた振り付けと反復練習		
	5	振り付け④	ダンス発表に向けた振り付けと反復練習		
	6	振り付け⑤	振り付けの中間確認を行う・フィードバック		
	7	中間発表	ダンス発表に向けた振り付けと反復練習		
	8	振り付け⑥	ダンス発表に向けた振り付けと反復練習		
	9	振り付け⑦	ダンス発表に向けた振り付けと反復練習		
	10	振り付け⑧	ダンス発表に向けた振り付けと反復練習		
	11	振り付け⑨	ダンス発表に向けた振り付けと反復練習		
	12	振り付け⑩	ダンス実習 実技小テスト		
	13	後期期末試験	ダンス発表		
	14	後期振り返り	後期学習内容の振り返り		
<p>履修上の留意点</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない</li> <li>・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施</li> </ul>					

## 授業計画(シラバス)

科目名	コンテンツ制作実習Ⅱ		指導担当者名	伊東 広
実務経験	有	音響制作、スタジオ経営者		
開講時期	通年	28ターム	対象学科学年	動画・映像クリエイト科2年、声優科2年
授業方法	講義:	演習:	実習: ○	実技:
年間時間数	84 時間		週時間数	3 時間
学習到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・音響機材セッティング/音声収録ができる</li> <li>・パソコンでのオーディオデータ編集入門</li> <li>・文章作成/構成/添削/読み上げの技術向上</li> <li>・1年生:ボイスサンプル制作</li> </ul>			
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としての作品、レポートの提出状況などを点数配分し、100点満点で評価していく。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績表かは、A(80点~100点:優)、B(70点~79点:良)、C(60点~69点:可)、D(0点~59点:不可)、の4段かとする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p> <p>上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する。</p>			
使用教材	パソコン、マイク、ヘッドホン、オーディオインターフェース、ケーブル類			
授業外学習の方法	収録した音声を編集アプリで編集をし、授業内容の復習を行う			
学期	ターム	項目	内容・準備資料等	
授業 計画 前期	1	オリエンテーション	自己紹介・マイク～スピーカー音が出るまで	
	2	パソコン基礎	パソコン操作基礎・ソフトインストール・データ種類/作成/保存	
	3	波形編集ソフト①	PC+オーディオIF 録音	
	4	波形編集ソフト①	PC+オーディオIFキューベース① 録音	
	5	波形編集ソフト②	キューベース② 波形編集・エフェクト1	
	6	波形編集ソフト②	キューベース② 波形編集・エフェクト1	
	7	波形編集ソフト③	キューベース③ 波形編集・エフェクト2、小テスト	
	8	波形編集ソフト③	キューベース③ 波形編集・エフェクト2、小テスト	
	9	ボイスサンプル研究①	歌ってみた制作、仮想CM制作	
	10	ボイスサンプル研究②	歌ってみた制作、仮想CM制作	
	11	ボイスサンプル研究③	歌ってみた制作、仮想CM制作	
	12	ボイスサンプル研究④	歌ってみた制作、仮想CM制作	
	13	前期期末試験	歌ってみた制作、仮想CM制作	
	14	前期振り返り	波形編集ソフト復習、ボイスサンプル復習振り返り	
<p>履修上の留意点</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない</li> <li>・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施</li> </ul>				

## 授業計画(シラバス)

科目名	コンテンツ制作実習Ⅱ		指導担当者名	伊東 広	
実務経験	有	音響制作、スタジオ経営者			
開講時期	通年	28ターム	対象学科学年	動画・映像クリエイト科2年、声優科2年	
授業方法	講義:	演習:	実習:	○	実技:
年間時間数	84 時間		週時間数	3 時間	
学習到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・音響機材セッティング/音声収録ができる</li> <li>・パソコンでのオーディオデータ編集入門</li> <li>・文章作成/構成/添削/読み上げの技術向上</li> <li>・1年生:ボイスサンプル制作</li> </ul>				
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としての作品、レポートの提出状況などを点数配分し、100点満点で評価していく。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績表かは、A(80点~100点:優)、B(70点~79点:良)、C(60点~69点:可)、D(0点~59点:不可)、の4段かとする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p> <p>上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する。</p>				
使用教材	パソコン、マイク、ヘッドホン、オーディオインターフェース、ケーブル類				
授業外学習の方法	収録した音声を編集アプリで編集をし、授業内容の復習を行う				
学期	ターム	項目	内容・準備資料等		
授業 計画  後 期	1	音響制作①	舞台音響制作体験①		
	2	音響制作②	舞台音響制作体験②		
	3	作品制作①	ボイスラジオドラマ制作 企画		
	4	作品制作②	ボイスラジオドラマ制作 企画		
	5	作品制作③	ボイスラジオドラマ制作 台本制作・キャスティング		
	6	作品制作④	ボイスラジオドラマ制作 台本制作・キャスティング		
	7	作品制作⑤	ボイスラジオドラマ制作 収録・BGMや効果音の選出		
	8	作品制作⑥	ボイスラジオドラマ制作 収録・BGMや効果音の選出		
	9	作品制作⑦	ボイスラジオドラマ制作 収録・BGMや効果音の選出		
	10	作品制作⑧	ボイスラジオドラマ制作 編集作業		
	11	作品制作⑨	ボイスラジオドラマ制作 編集作業		
	12	作品制作⑩	ボイスラジオドラマ制作 編集作業		
	13	後期末試験	ボイスドラマ完パケ		
	14	後期振り返り	舞台音響復習、ボイスドラマ制作復習振り返り		
<p>履修上の留意点</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない</li> <li>・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施</li> </ul>					

## 授業計画(シラバス)

科目名	吹き替え実習		指導担当者名	小椋 有紗
実務経験	有	声優・役者としてプロダクション所属の経験		
開講時期	通年	28ターム	対象学科学年	声優科 2年
授業方法	講義:	演習:	実習: ○	実技:
年間時間数	84 時間		週時間数	3 時間
学習到達目標	アテレコの基礎知識を学び、アテレコ表現を習得する。			
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としての作品、レポートの提出状況などを点数配分し、100点満点で評価していく。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績表かは、A(80点~100点:優)、B(70点~79点:良)、C(60点~69点:可)、D(0点~59点:不可)、の4段かとする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p> <p>上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する。</p>			
使用教材	台本、筆記用具			
授業外学習の方法	台本読み、役作り等			
学期	ターム	項目	内容・準備資料等	
授業 計画 前期	1	オリエンテーション	授業の流れの確認	
	2	アテレコの基礎知識①	外画について、外画の見方について	
	3	アテレコの基礎知識②	アテレコ、アフレコの違いについて	
	4	アテレコの基礎知識③	外画の視聴、解説等	
	5	アテレコ実習①	日常会話(ナチュラルな演技)①	
	6	アテレコ実習②	日常会話(ナチュラルな演技)②	
	7	アテレコ実習③	日常会話(コミカル)①	
	8	アテレコ実習④	日常会話(コミカル)②	
	9	ラジオドラマについて①	ラジオドラマについて	
	10	ラジオドラマについて②	ラジオドラマ実習	
	11	アテレコ実習⑤	日常会話(ショートムービー)①	
	12	アテレコ実習⑥	日常会話(ショートムービー)②	
	13	前期期末試験	アテレコ実践テスト(日常会話)	
	14	前期振り返り	前期の学習内容の振り返り	
<p>履修上の留意点</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない</li> <li>・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施</li> </ul>				

## 授業計画(シラバス)

科目名	吹き替え実習		指導担当者名	小椋 有紗	
実務経験	有	声優・役者としてプロダクション所属の経験			
開講時期	通年	28ターム	対象学科学年	声優科 2年	
授業方法	講義:	演習:	実習:	○	実技:
年間時間数	84 時間		週時間数	3 時間	
学習到達目標	アテレコの基礎知識を学び、アテレコ表現を習得する。				
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としての作品、レポートの提出状況などを点数配分し、100点満点で評価していく。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績表かは、A(80点~100点:優)、B(70点~79点:良)、C(60点~69点:可)、D(0点~59点:不可)、の4段かとする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p> <p>上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する。</p>				
使用教材	台本、筆記用具				
授業外学習の方法	台本読み、役作り等				
<b>学期</b>	<b>ターム</b>	<b>項目</b>	<b>内容・準備資料等</b>		
授業 計画  後 期	1	前期振り返り	前期の振り返り、後期の流れ確認		
	2	アテレコ実習⑦	海外ドラマ(専門用語系)①		
	3	アテレコ実習⑧	海外ドラマ(専門用語系)②		
	4	アテレコ実習⑨	海外ドラマ(ホラー系)①		
	5	アテレコ実習⑩	海外ドラマ(ホラー系)②		
	6	ラジオ番組①	ラジオ番組実習		
	7	アテレコ実習⑪	映画作品一本通し①		
	8	アテレコ実習⑫	映画作品一本通し②		
	9	アテレコ実習⑬	映画作品一本通し③		
	10	ラジオ番組②	ラジオ番組実習		
	11	アテレコ実習⑭	映画作品一本通し④		
	12	アテレコ実習⑮	映画作品一本通し⑤		
	13	後期期末試験	アテレコ現場を想定した実技テスト		
	14	後期振り返り	後期学習内容の振り返り		
<p>履修上の留意点</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない</li> <li>・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施</li> </ul>					

## 授業計画(シラバス)

科目名	ラジオ・MC実習Ⅱ		指導担当者名	ちば えみ
実務経験	有	県内外のMC・ナレーターに従事。日本俳優連合会組合員。		
開講時期	通年	28ターム	対象学科学年	声優科 2年
授業方法	講義:	演習:	実習: ○	実技:
年間時間数	84 時間		週時間数	3 時間
学習到達目標	・司会、イベントMCなどの知識・技術、MC原稿読み・イベント進行を学び、MCとして舞台に立てる人材の育成を行う。			
評価方法 評価基準	学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としての作品、レポートの提出状況などを点数配分し、100点満点で評価していく。 期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績表かは。A(80点~100点:優)、B(70点~79点:良)、C(60点~69点:可)、D(0点~59点:不可)、の4段かとする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。 上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する。			
使用教材	MC原稿、筆記用具			
授業外学習の方法	ナレーション原稿作成、原稿読み等			
学期	ターム	項目	内容・準備資料等	
授業 計画 前期	1	オリエンテーション	授業の流れ、模擬オーディション	
	2	ラジオMC実習①	ラジオMCについて実践を交えて学ぶ	
	3	ラジオMC実習②	ラジオMCについて実践を交えて学ぶ	
	4	ラジオMC実習③	ラジオMCについて実践を交えて学ぶ	
	5	ラジオMC実習④	ラジオMCについて実践を交えて学ぶ	
	6	ラジオMC実習⑤	ラジオMCについて実践を交えて学ぶ	
	7	イベントMC実習①	食品、スポーツ用品、化粧品のナレーションイベントMC	
	8	イベントMC実習②	自動車、ゲーム、旅行プランのイベントMC	
	9	イベントMC実習③	住宅展示場、アミューズメントパークのイベントMC	
	10	イベントMC実習④	音楽イベントのMC	
	11	イベントMC実習⑤	eスポーツイベントのMC	
	12	イベントMC実習⑥	結婚式の司会	
	13	前期期末試験	MC基礎知識についてテスト	
	14	前期振り返り	前期学習内容の振り返り	
履修上の留意点 ・出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない ・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施				

## 授業計画(シラバス)

科目名	ラジオ・MC実習Ⅱ		指導担当者名	ちば えみ	
実務経験	有	県内外のMC・ナレーターに従事。日本俳優連合会組合員。			
開講時期	通年	28ターム	対象学科学年	声優科 2年	
授業方法	講義:	演習:	実習:	○	実技:
年間時間数	84 時間		週時間数	3 時間	
学習到達目標	・司会、イベントMCなどの知識・技術、MC原稿読み・イベント進行を学び、MCとして舞台に立てる人材の育成を行う。				
評価方法 評価基準	学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としての作品、レポートの提出状況などを点数配分し、100点満点で評価していく。 期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績表かは、A(80点~100点:優)、B(70点~79点:良)、C(60点~69点:可)、D(0点~59点:不可)、の4段かとする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。 上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する。				
使用教材	MC原稿、筆記用具				
授業外学習の方法	ナレーション原稿作成、原稿読み等				
<b>学期</b>	<b>ターム</b>	<b>項目</b>	<b>内容・準備資料等</b>		
授業 計画  後 期	1	紹介・説明ナレーション②	セミナー紹介、マナー講座、学校授業教材の司会		
	2	ラジオ番組制作①	ラジオ番組を想定し、企画、番組収録を行う		
	3	ラジオ番組制作②	ラジオ番組を想定し、企画、番組収録を行う		
	4	ラジオ番組制作③	ラジオ番組を想定し、企画、番組収録を行う		
	5	ラジオ番組制作④	ラジオ番組を想定し、企画、番組収録を行う		
	6	ラジオ番組制作⑤	ラジオ番組を想定し、企画、番組収録を行う		
	7	ラジオ番組制作⑥	ラジオ番組を想定し、企画、番組収録を行う		
	8	ラジオ番組制作⑦	ラジオ番組を想定し、企画、番組収録を行う		
	9	ラジオ番組制作⑧	ラジオ番組を想定し、企画、番組収録を行う		
	10	ラジオ番組制作⑨	ラジオ番組を想定し、企画、番組収録を行う		
	11	ラジオ番組制作⑩	ラジオ番組を想定し、企画、番組収録を行う		
	12	ラジオ番組制作⑪	ラジオ番組を想定し、企画、番組収録を行う		
	13	後期期末試験	実技テスト		
	14	後期振り返り	後期学習内容の振り返り		
履修上の留意点 ・出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない ・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施					



## 授業計画(シラバス)

科目名	演技表現実習Ⅱ		指導担当者名	難波 恭介
実務経験	有	県内外で俳優業に従事		
開講時期	通年	28ターム	対象学科学年	声優科2年
授業方法	講義:	演習:	実習: ○	実技:
年間時間数	84 時間		週時間数	3 時間
学習到達目標	・演技表現の基礎を学び、本番の舞台公演を完成させ、多岐にわたる舞台制作のスキルを身に付ける。			
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果による評価の他、出席状況、授業課題としての制作物、レポート等の提出状況を点数配分し、100点満点で評価していく。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は「A(80点~100点:優)、B(70点~79点:良)、C(60点~69点:可)、D(0点~59点:不可)」の4段階とする。A、B、Cの評価は合格とし、D評価の場合は不合格とする。上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する。</p>			
使用教材	台本			
授業外学習の方法	自宅での台本読み、発声、役作り 等			
学期	ターム	項目	内容・準備資料等	
授業 計画 前期	1	オリエンテーション	授業の流れ、模擬オーディション	
	2	演技とは何か?	様々な演技表現、自身の芝居を振り返る	
	3	実践トレーニング①	演劇における声の出し方、応用トレーニング①	
	4	実践トレーニング②	演劇における声の出し方、応用トレーニング②	
	5	実践トレーニング③	演劇における立ち振る舞い①	
	6	実践トレーニング④	演劇における立ち振る舞い②	
	7	実践トレーニング⑤	エチュード①	
	8	実践トレーニング⑥	エチュード②	
	9	実践トレーニング⑦	感情表現「喜」	
	10	実践トレーニング⑦	感情表現「怒」	
	11	実践トレーニング⑧	感情表現「哀」	
	12	実践トレーニング⑨	感情表現「楽」	
	13	前期期末試験	感情表現 即興劇 実技テスト	
	14	前期振り返り	前期学習内容の振り返り	
<p>履修上の留意点</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない</li> <li>・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施</li> </ul>				

## 授業計画(シラバス)

科目名	演技表現実習Ⅱ		指導担当者名	難波 恭介	
実務経験	有	県内外で俳優業に従事			
開講時期	通年	28ターム	対象学科学年	声優科2年	
授業方法	講義:	演習:	実習:	○	実技:
年間時間数	84 時間		週時間数	3 時間	
学習到達目標	・演技表現の基礎を学び、本番の舞台公演を完成させ、多岐にわたる舞台制作のスキルを身に付ける。				
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果による評価の他、出席状況、授業課題としての制作物、レポート等の提出状況を点数配分し、100点満点で評価していく。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は「A(80点~100点:優)、B(70点~79点:良)、C(60点~69点:可)、D(0点~59点:不可)」の4段階とする。A、B、Cの評価は合格とし、D評価の場合は不合格とする。上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する。</p>				
使用教材	台本				
授業外学習の方法	自宅での台本読み、発声、役作り 等				
学期	ターム	項目	内容・準備資料等		
授業 計画  後 期	1	期末試験振り返り	キャスト別台本読み①		
	2	舞台稽古	キャスト別台本読み②		
	3	舞台稽古	立ち稽古①		
	4	舞台稽古	立ち稽古②		
	5	舞台稽古	立ち稽古③		
	6	舞台稽古	立ち稽古④		
	7	舞台稽古	立ち稽古⑤		
	8	舞台稽古	通し稽古①		
	9	舞台稽古	通し稽古②		
	10	舞台稽古	通し稽古③		
	11	舞台稽古	リハーサル		
	12	舞台稽古	ゲネプロ、仕込み		
	13	後期期末試験	舞台本番 にて実技試験		
	14	後期振り返り	後期学習内容の振り返り		
<p>履修上の留意点</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない</li> <li>・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施</li> </ul>					